

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/4/20 実施)～

参加者: 7 名

今回も 3 名の参加者の感想を掲載します。

カキドオシ

「垣通し」と記すのだそうだ。茎が弦のように伸び、垣根をすり抜けて隣地まで伸びてゆくのがその名の由来らしい。花はうす紫の小さなかわいい姿で私にとっては雑草であったが、やっぱり立派な花である。花の命名は前回の「タネツケバナ」と同じように身近な生活から生まれており、なかなか面白い。



カキドオシ (2013 年 4 月撮影)



ノミノフスマ (2015 年 4 月撮影)

- ・ よその庭で見た植物を図鑑で調べたらツボクサ(壺草又は坪草)のようで、林内でも見られるとあり、根木内での存否チェックを目論んだ。
(手持ちの根木内記録にはない) 湿地帯観察後 30 分ばかり林内を隈なく探したがそれらしいのにとんと出会わなかった。ほんとにないのか、探せないだけか。
- ・ 先月、田で観察したタネツケバナはもうすっかり頭に入っていたはずだが背丈が 3 倍位に成長し、且つ先月は気付かなかった 3 回奇数複葉に気を取られていたらこりゃ何だとなってしまう。こんなことの繰り返しで 4, 5 年経過している。

ノミノフスマが花をつけていた。ハコベの仲間
で、田の畔などにひそやかに咲くかわいらしい花
だ。その姿からは繊細といったことばが浮かぶ。

タガラシの花。田んぼを耕すとなぜかちゃんと
現れる。農家にとっては迷惑な植物の一つかもし
れないが、見つけるとうれしい。今回ケキツネノ
ボタンを確認しなかった。何か忘れ物をしたよう
な気がしている。



湿地の様子

- ・今日の感動は、ジャヤナギエリア南方のスギナの絨毯です。先日、田に進出してきたスギナの除去に苦勞したばかりなのでこのコントラストは強烈でした。序に、群生したカキドオシが揃って開花している様も絵になっていました。
- ・オジロアシナガゾウムシを生れてはじめてそれと認識するチャンスを得た。図鑑で見るゾウムシはどれも鼻が長いが揃いも揃ったものだ。



オジロアシナガゾウムシ
(他所での写真)

塩枯

公園の入り口に 2 本のケヤキがあり、冬の間は葉が落ちた状態なのか枯れた状態なのかははっきりとしていなかった、今日は緑の柔らかい新芽が見受けられほっとした感想である。しかし全体としては、芽吹きが弱く感じられた。夏に向かって濃い緑の葉に成長することを期待したい。



ナガサキアゲハ



アリアケスミレ

5月の湿地の観察会は、、、

5月18日(土)

9:30 駐車場集合 (小雨決行) です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。

今後は**基本的に第3土曜**に開催ということになりました。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com (相澤)

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/5/18 実施)～

参加者: 6名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

ヨシの伸びる勢いには毎年圧倒されますが、今年も至る所に伸びだして、昔より増えている？と感じてしまいます。そのヨシに負けたのか、ミクリ池と称してた所にミクリがなくなっているのに今回気づいて驚きました。ジャヤナギ下の水が来てる場所にしかありませんでした。花を付けてるのも1本しかなくて心配です。

タコノアシも少し減ってるかなと、去年あたりから気になってたので、気を付けて見ていこうと思います。



ケキツネノボタンに付着する黄色い物体
(写真中の矢印の部分)

中央池周辺で全高7,80cmはあろうかと思われるケキツネノボタンに出くわしたが、茎には数か所、葉にも1か所山吹色のものが付着していた。虫こぶ、コケ類の寄生等諸説が出た。よく見ると、付着物は茎が折れ曲がった上面に長径2,3cm位の楕円形、葉では葉脈上に5mm位の大きさで広がっていた。この付着物がケキツネノボタンを選好するとしたら単独で存在するようなものに良く出くわしたものだと思う。

高台南西側にヤマボウシが3,4本生育しているが、花のつき方がそれぞれ異なる。1本は全周満遍なくついているが、他はほんの数か所であったり、ほとんどなかったりである。日当たり、隔年開花性でもあるのか等々思いめぐらせた。帰途ヤマボウシの花を今年はずいぶん前に観察したことを思い出し、ひょっとして花が散ってしまったのか等思いを巡らせた。



ヤマボウシ (2013年5月撮影)



ミコシガヤ



タガラシ



ウシハコベ

今月はカワジシャ、ケキツネノボタン、ウシハコベの花を園内のあちこちで確認した。この春に育ちはじめたばかりのような小さなものも沢山みられたことから、数がふえたのかなと思う。

他にアゼナルコ、ミコシガヤも元気がよかった。けれどカズノコグサは1本みつけたのみ。タコノアシはどうした？と探したらアシやアゼナルコの影になってしまっていた。タコノアシも生存競争に負けないで。

一本のケキツネボタンの茎にオレンジ色のものが付着して、そこから茎が曲がってしまっていた。これは何か？ネナシカズラのような紐状のものは見られなかったが、何か寄生しているのか？気になった。

6月の湿地の観察会は、、、

6月22日（土）（15日が雨天のため延期）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。

観察会は**基本的に毎月第3土曜**に開催です。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com（相澤）

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/6/22 実施)～

参加者: 9 名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

カワヂシャに寄生するようなこぶ状の丸い粒にひかれた。これは「むしこぶ」と呼び、植物に虫が棲みつき丸いこぶ状の粒になっていて実際に虫も入っていた。初めて見たが丸い実がなっているように見え、驚きであった。

これまで 10 年以上観察してきて、カワヂシャに虫こぶがついているのを始めてみました。虫こぶには虫こぶ自体の名前と、その虫こぶを作っている虫の名前のふたつがあるらしく、調べてみると虫こぶは「カワヂシャツボミタマフシ」で、虫は「ムシクサコバンゾウムシ」というゾウムシの仲間だそうです。

インターネット上にもあまり情報のない虫ですが、どこからやってきたのか?カワヂシャへの影響の大きさは?など気になります。



カワヂシャツボミタマフシ



虫こぶの主は?



ゾウムシ現る
(ムシクサコバンゾウムシ)

特に珍しいことではなかったが、毎年ドクダミを取り乾燥させてドクダミ茶を家内と一緒に飲んでいる。昔から体に良いといわれておりドクダミを採取している。

「毒と痛み」に効くからと「ドクダミ」と呼ぶようになったらしい*。ドクダミだけのお茶では少々味がきついようで小生は麦茶、よもぎ、柿の葉などを一緒に淹れている。体に効いているような気がする。

※ドクダミの名前の由来は諸説あります。



ドクダミ

田に浮草が密生し出したのでこの処置が作業日に話題になった。一面に繁殖しているので、例年観察されるアオコは日光が遮られるから、今年は心配無用だろうと先ず思い、後は観察会マターとして今日に臨んだ。

ネット情報に依れば、浮草は日光を遮断するので水温が上がらず稲の生育上有害で、かつて農民はこの除去に苦勞したとある。

観察日に浮草を除去してみたが、一掴みした時の質量感は予想以上のもので、根も葉状体からほんの少し下方に出ているものと想像したのと大違いで5 cm位の水深をものともせず土中に根を届かせていた。

後は、浮草が土中の養分を稲と如何取り合うかだと思うが、根の深さが稲には遠く及ばず、水温の害のみがかつて取りざたされていたというなら、今年は浮草はそのままで様子見としようと思うが……。



アオウキクサ

緑がすっかり濃くなった樹上からホオジロと思われる鳴き声が聞こえるが、、、。姿は見つけられない。ハグロトンボ、ショウジョウトンボ、シオカラ、オオシオカラ、ノシメなどのトンボ類が盛んにとびまわり、ナミアゲハ、キアゲハ、アオスジアゲハ、ベニシジミといったチョウ類の色も鮮やかだ。

雨にぬれた草むらにはコガネグモが巣をかけ、ヒメカノコテントウの姿も確認。

生い茂ったアシの群を眺めていたら、さっとカワセミがとんだ。ヒスイ色が目にやきついた。

最後にシマヘビにもお目にかかった。これは私にはあまり楽しいものではないが。

ヨシの密生度が増し、細くなっていることが気になります。この状態が続くとどうなるのか心配です。ヨシ刈りをしてないせいでしょうか？



ナミアゲハ



ヒメカノコテントウ

この1か月、城址高台下方斜面と通路間の実生常緑樹(胸高直径約20cm以下対象)を、公園緑地課に話した上で、そのエリアに明るさを取り戻すことを目的に伐倒している。今後の参考の為、観察会メンバーの意見を聞いてみた。森をどう見るかで対応は一樣ではなく、現在の伐倒で何が如何変化するか注視し、変化があれば、それをどう評価し次の対応に繋げていくことかなという、大所高所からの意見の他、トンボの生態が水辺背後の森にも依存しているのでその点の考慮も必要という具体的な観察項目を明示するものが聞けた。



ノシメトンボ



フラれてしまったベニシジミのオス

パーゴラ前の広場で、ベニシジミが2頭で追いかけてっこしていました。どうやらオスがメスを追いかけているようで、隣にとまって、そーっとおしりの部分をメスに近づけていって、、あわやのところで、メスは飛んで逃げて行きました。フラれてしまったオスは、その後もメスを追いかけていましたが、隣にとまることすら許されず。追いかけているメスの方が翅がきれいで若そうだったので、チョウの世界もオジサンにキビシいな、としみじみと感じました。

6月の湿地の観察会は、、、

7月20日(土)

9:30 駐車場集合 (小雨決行) です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。

観察会は**基本的に毎月第3土曜**に開催です。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com (相澤)

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/7/20 実施)～

参加者: 5名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

雲が低く垂れこめて、蒸し暑い何となく薄暗い日でしたが、ミンミンゼミの声が聞こえてきました。樹林の中は、さらに薄暗いですが、そんな中で咲くソクズ、ヤブミョウガの白い花がとても目立ちました。

草むらでは、セリの白い花が見られ、オカトラノオの白い花もありました。こんな日には、白い花がさわやかでした。



ヤブミョウガ



セリ

草むらにはもう一つ白いもの、ナガコガネグモの小さい円盤状の隠れ帯が、あちこちにあって、怒らせて網を揺すらせてみたり、ショウリョウバッタ(?)の子どもがかかるのをみたり楽しかったですよ。

草むらにコガネグモやナガコガネグモの巣がやたらと目についた。主はカクレオビにいて(隠れているようには見えないが)我々には巣をゆすって威嚇する様が面白い。草むらには他の昆虫が飛び交っていて結構巣にかかるから見ていて飽きない。カクレオビが強調されているので網の他の部分には餌食の注意が向かないのかなあ。



ナガコガネグモ

今年の梅雨はまだ開けておらず天候も不順だが、ミンミンゼミが鳴いた。湿った草むらには小さなショウリョウバッタ、コバネイナゴがたくさんとびかっていた。そして低い草丈の間のあちこちにも蜘蛛の巣があった。ナガコガネグモ、コガネグモ、ジョロウグモ、イオウイロハシリグモなどを見る。シマヘビも草むらにひそんでいた。先月見かけなかったハグロトンボは一匹確認。



ハグロトンボ



ショウリョウバッタ

冬の間刈り取られた草むらにアカバナがのびていた。(2か所確認) 土の中には様々な種が眠っており、条件がうまく合致すると目覚めるのだろうか。冬季、植物が伸びていない状態での草刈は地面に陽の光を当てる意味で有効なのかなと感じる。広場のムクゲに一匹のラミーカミキリを見た。写真に取ろうとしたらとんでしまったが、今年も生息しているらしい。近年外来種のカミキリが進出しているらしいので、ラミーを見かけることは歓迎すべきではないのだろうが、ラミー発見！と思わず声が出た。

先日の水田は深々と水が張られており、ウキクサは1週間前とは違い根が水中に浮いた状態になっていた。今日は水が落とされていてウキクサはほとんどが地面に接した状態であった。浮いていようが、水がなくなろうがウキクサそのものは見た目には変化がない。5 cm位の根がちゃんと土に根を下ろすのが常かと思っていたが、水中に浮こうが土の上に折り畳まれようが一向に構わないようなのは驚きである。但し深く水が張られて浮いたり、水がなくなると言っても1日かそこらの事だから、これ位ではウキクサ自体に変化は出ないのかもしれない。前回アオコ対策になるとか水温上昇対策とかに言及したが総合的な見解や如何と思いついている。

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/8/17 実施)～

参加者: 6名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

アカバナが一本だけ、大きく伸びた株に、ピンクの小さな花を沢山咲かせてました。赤くない花なのに、なんでアカバナかと思ってたら、葉が秋に赤くなるからと図鑑に書いてあって今まで読んでなかったんですね。

タコノアシが少し減ってるかなと、春先に気になってましたが、シロバナサクラタデの中にかなりの数で花を咲かせてました。大丈夫そうです。



アカバナ



タコノアシ

手作り木道の脇にホタルイらしきものが、毎年(去年は見なかったけど)数本の花茎を伸ばしてましたが、今年は少し株が大きくなったのか花茎がふえてました。名前の由来に、蛍がいそうな所に生えるからと書いてあって嬉しかったんですが、田んぼのやっかいな雑草のようで、がっかりです。でも、この公園では、今のところ一か所にしか出てないので大事にしています。

イグサに関して

クサイ、ホタルイ、イグサの3種類に出会った。イグサとクサイはイグサ科、ホタルイはカヤツリグサ科であるが、イグサに関する種類はたくさんあるらしい。イグサは正式には「イ」と呼称し最も短い標準和名だそう。イグサには記憶に残る思い出がある。中学生の頃の記憶と思うが、鹿児島本線の熊本駅から八代駅に向かう車窓からイグサの田圃が広く見え、その田圃はどこまでもどこまでも続いていた記憶が今も残っている。調べてみるとイグサは外国産も多いが日本での生産量は熊本県が8、9割を占めているとのこと。記憶の強烈さは本物だったのではないかと改めて記憶が鮮明になった。



イ



アオバハゴロモ

アオバハゴロモに関して

木の小枝に一行に数匹が並んで止まっている姿は非常に美しい。大きさは1 cmほどあり、色は全体に白に近い薄緑色で後ろの縁の部分には薄い赤色で縁取られているように見える。見た目の可愛さから想像できなかったが、ネットによると農業害虫（ミカンや茶など）でもあるらしい。

いつもの夏にくらべたら、アシの伸びが悪いように思う。いつも3メートルくらいにのびるのに、なぜだろうと書いて、去年の記録を見たら同じことをかいていた。アレ？一方マコモは花をつけ、元気に伸びている。タカサブロウの花を見る。夏だな。カントウヨメナも早いものが咲きだした。先月見たアカバナは可憐な花をつけていた。マツカサススキがあちこちに見られるが数が増えたのだろう。ミゾソバ、コブナグサは葉を元気一杯にのぼして、その間に白いセリの花が清楚だ。ホタルイも増えたようだ。小穂の先にのびているのは苞とのことだが、まるで茎の途中に小穂がついているように見える。



マツカサススキ



右がナツアカネで左はアキアカネ？

ギンヤンマ、シオカラ、ノシメが盛んにとびかう。広場から湿地に下る堀のロープにトンボが沢山とまっており、捕まえて観察すると、ナツアカネ、アキアカネが混じっていた。アキアカネは山へ行きそびれたのだろうか。

7月の長雨の時、今年はまだすでに田んぼにアキアカネが舞っており、山へ行っていないらしいとの新聞記事があり、実際私も田んぼに舞うアキアカネらしきトンボの群れをみた。今根木内にいるアキアカネはどうなのか？トンボに聞いてみたかった。

9月の湿地の観察会は、、、

9月21日（土）

9:30 駐車場集合（小雨決行）です。

遅れての参加、早めに帰宅など自由ですので、お気軽にご参加下さい。

観察会は**基本的に毎月第3土曜**に開催です。

お問い合わせは下記メールまでお願いします。

akihitoaizawa@gmail.com（相澤）

根っ子の会の観察日記

～根木内歴史公園:湿地の観察会(2019/9/21 実施)～

参加者: 6名

※この観察日記は、参加者の感想を基に構成されています。

根っ子の会の森さんに師事して、5年ほど田んぼ作業に精を出している。9月に入るや稲の背を越してケイヌビエの生育が旺盛になり会員から「田の草」管理を擲擧されるようになった。イボクサ等が目立つ初夏頃全面的に除草し安堵していたら、この始末である。株毎抜くには相当に手強い。1年草だから鎌で切除しようとする、また芽(ひこばえ?)が出るから極力抜き取る事とは師匠の指示。全身汗だらけになり一渡り抜いたと思っ



ケイヌビエ (2011年7月撮影)

たら稲穂と同程度以下の背丈のが又伸びてきて、都合3日も要した(根っ子の会の作業日は週1日)。ケイヌビエとイヌビエの2者を探し出して貰い比較した。両者の背丈、小穂サイズおよびポー(のぎ)の長さの差異を確認した。



ガガイモの花

入り口のユキヤナギの中にあるガガイモに花と小さな実がついていた。長細くないのが気になるが、綿毛をつけた種子がみられるまで、ちゃんと塾すといいなと思う。

シロバナサクラタデ、ボントクタデ、チョウジタデ(花はまだ)などが咲きだした。

シロバナサクラタデは2か所で群落になっていた。赤い小花がかわいいボントクタデも今年は数多く見られる。



ボントクタデの花のアップ

イボクサもあちこちに花が見られた。田んぼの中だと、稲作には邪魔にされてしまうので湿地の中でちゃんと居場所をみつけてくれたらいいな。ハシカグサ、ホウキギク、テンツキ、ツルマメ、の花も見られる。ヌカキビの穂もそろそろ出始めた。



ハシカグサ



イボクサ

アキアカネ、オンブバッタなどの昆虫を観察していると、ジャコウアゲハもヒラヒラとやってきた。湿地はすっかり秋の装いだ。



クビキリギス



キアゲハの幼虫

オモダカは田んぼの雑草で、三角の矢じり型の葉と、その間から伸びる白い花が特徴的な植物です。田んぼの雑草として農家から嫌がられていたはずなのに、「オモダカ紋」という家紋があることから、そのデザイン性が昔から一目浴びていたのだと思われます。根木内にはそのオモダカはないのですが、葉がまっすぐの「へらオモダカ」があります。良く見ると、案外かわいい花をつけています。



へらオモダカ